

平成30年4月4日(水)

老球の細道403号

## 相双地区バスケットボールクリニック雑感

会津バスケットボール協会 室井 富仁

教員のスタートは原町高校であった。昭和53年(1978年)で今から40年前になる。3月末、赴任した日は相双地区にあいにくの大雪が降った。ノーマルタイヤのボロの中古車で福島から相馬までの国道115号線を命をかけて運転したことを今でも思い出す。原町は初めての土地であったが、多くの素晴らしい教え子と出会い、自由な校風の中で最高の7年間を過ごすことができた。相双地区は第二の故郷である。

今年度も相双地区からクリニックの依頼を受けた。3月24日(土)は相馬東高校、25日(日)は思い出満載の原町高校で行った。これもひとえに相双地区強化委員長の桑田先生(相馬東高)と原町高校時代の教え子達のおかげである。2日間にわたって、ミニ、中学、高校生とのべ140名の選手、指導者も23名参加してくれた。

今回のテーマは「速攻からアーリーオフェンス&モーションオフェンス」ということで、主にチームオフェンスを組み立てるときの流れとアイデアを紹介した。また、速攻の最も基本的なシチュエーションである「1:1」「2:1」「3:2」の攻め方の理論化とタイムマネジメントを考慮しながらのドリルを指導した。

現在の相双地区の競技力は会津地区同様それほど高いとは言えないが、個人的に見ると、ミニ、中学にかなり有望な選手がいた。県選抜チームにもミニ、中学で数名選ばれている。これらの選手が全員今回のクリニックに参加してくれた。特に素晴らしかったのはミニの県選抜であるA君である。相馬地区の選手であるが、相馬、原町とほぼ同じ内容のクリニックなのに2日間共参加した。私の説明を聞くときの目つきが真剣で、高校生かと思ったら小学6年生だった。体も大きく、ドリルが始まると常にそのグループで1番最初に練習する。また、女子で中学1年生ながら福島県ジュニアオールスターに選ばれた原町の2人も素晴らしかった。この子達も高校生と間違えてしまった。また、男子で同じくジュニアオールスターに選出されているK君も高校生以上の能力と意識の高さに驚かされた。

この他にも楽しみなミニ、中学生満載であった。何しろ、ドリルのデモンストレーションをする選手を募ると、真っ先にコートに出てくるのが高校生ではなくミニ、中学生の子どもたちだった。本人たちの意識の高さか、はたまたコーチの日頃の指導のたまものか。皆の前で見本を見せることは確実にそのスキル、プレイを上達させる。講師の話を後ろで聞き、皆の後からドリルに参加する選手で上手になった者を、私は未だ知らない。

驚かされたのは選手だけではなく、初日の相馬での夜の懇親会である。10名位のコーチが参加したが、この席にバスケットのホワイトボードを持ち込んでバスケットボール談義が始まったのである。私も若い頃は筆記用具とメモ用紙を持ち込んで飲み会に参加していたが、ホワイトボードにはびっくりした。日本酒NO1と言われる「獺祭」も参加したので、情熱ある指導者たちとのバスケットボール談義は多いに盛り上がった。

教員のスタートを切った相双地区で、かつての教え子達に講習会を企画してもらい至福の時間を過ごすことができた。帰りの原町から復興ままならない飯館村を通って帰ってきたが、運転しながら「頭と体が動く限り、いつまでも教え子たちに雄姿(?)を見せられるようハッスルしよう。そして、決して“疲れた!”と口走らない」と決意した。